

# 「まちの縁側」ツアーをしませんか？チーム活動報告

H25/04/15

チームリーダー 絹川雅則

## ■京都三条ラジオカフェにおける広報活動

平成 24 年 1 1 月と平成 25 年 1 月 30 分番組を 8 回オンエア

タイトル：「下京町衆倶楽部」ってご存じですか？～下京区民の新たな企て～

概要：下京区民がなにやらおもしろい企てをしています。それらについて下京町衆倶楽部からお二方お招きし、お話しいただきました。

ゲスト：下京町衆倶楽部 屋上緑化チーム 中村吉江氏

下京町衆倶楽部 まちの縁側チーム 近藤 宏氏

下京町衆倶楽部の全体像と屋上緑化チーム、まちの縁側チームの活動目的についての紹介が出来たと思います。下京サンデー茶屋についても説明しています。

詳しい内容は、下記の Web ページを参照して下さい。

<http://www.kohsei-const.co.jp/chobitto/121118.html>

平成 25 年 3 月の放送 30 分番組を 4 回オンエア

タイトル：下京町衆倶楽部と龍谷大学辻田素子ゼミとの出会い

概要：龍谷大学経済学部辻田ゼミよりお若い二人をお招きし、下京町衆倶楽部と辻田ゼミの出会いとその活動についてお話しをいただきました。

ゲスト：龍谷大学経済学部辻田ゼミ 2 回生 古川裕之君

龍谷大学経済学部辻田ゼミ 2 回生 蔵下啓太君

■第一章 まちの縁側シンポジウムでは、実際にまちの縁側を運営する人たちの話を聞きました。そもそもまちの縁側とは？『島原ふれあいクラブ』『かたりば朋』のこと。あの『ハルハウス』に行ってみて。

## ■第二章 まちの縁側ツアー実験

龍谷大辻田素子ゼミの若い学生さんの口を通じて、下京町衆倶楽部の「まちの縁側」ツ

ア－実験の体験記をかなり分かりやすく放送できたと思います。下京町衆倶楽部が、老若男女の異年齢の「おでん」のような味を醸し出す試みであることを伝えようと企画してみました。詳しい内容は、下記のWebページを参照して下さい。

番組内容のテープ起こし原稿と音声データをインターネット上に保存してあります。

<http://www.kohsei-const.co.jp/chobitto/130317.html>

## □H25年2月23日「まちの縁側」ツアー実験報告（その1）の①



写真01

■下京町衆倶楽部の拠点 = 安寧小2Fの元理科室。

大規模でなくてもMAX 10人くらいの「まちの縁側」ツアーを地道に仕掛けてゆきたい。そのための第一歩の実験的試みでした。

■龍谷大辻田素子ゼミの3回生と2回生が中心になって企画運営した2/17の「まちの縁側」シンポジウムにもパネリストとして登壇された駒井義弘さんのお話をゆっくり聴かせていただきながらのコーヒータイム。これぞ下京サンデー茶屋体験です。（写真01）

■「島原ふれあいクラブ」の成り立ちや中心となって活動してこられた方々のお話をたっぷり。そして、世代を超えた対話がコミュニティ・カフェの醍醐味です。 第1部の参加

者は7名。20代～70代までいいバランスです。

■龍大2回生の古川君による2/17の「まちの縁側」シンポジウムの振り返りも盛り上がりました。彼は、自分の発言や進行が稚拙で反省することばかりだと言ったのですが、それに反し、回りの大人たち（駒井さんや近藤さんと中村さんと絹川も含めて）の評価は高いのです。異年齢での対話の面白さをここでも大いに感じておりました。

## □H25年2月23日「まちの縁側」ツアー実験報告（その1）の②

■下京町衆倶楽部の幟をおしたて、8名の行列が語り場朋横山さんの元へと行進を開始。（写真02）「語り場 朋」主人の横山さんは、長らく少年補導の役員を務められた大工の棟梁のおかみさんなのです。

■ご近所の常連さんたちに週に5日 ワンコインランチを出しておられます。コミュニティ・レストランだけど「食堂」ではないのです。自宅の晩飯をイメージさせるたっぷりした食事が出ます。お腹いっぱいになりました。お年寄りだからあっさり系ではないのだそうです。晩御飯を軽く…が横山さん流です。通われる常連さんは、13名。

■お年寄りとのおしゃべりに耳を傾ける、横山さんの姿が印象的でした。

■遠くから視察に来られるケースも多いようです。

■以下のURL 参照下さい。

<http://datsumuensyakai.jimdo.com/まちの縁側/下京区/かたりば朋/>



写真02



写真03

■屋上緑化チームの中村さんがお友達を誘っていただいたので、第2部「語り場朋」横山さんを囲んでの座談会&コミュニティ・Restaurant体験は8名の参加となりました。タクタクチームの増田さんも参加いただき、チーム間のコラボが始まったのもうれしい感想であります。

■まずは下京区内の「まちの縁側」をつなぐモデルツアーコースを作ってみよう。そして、その実験をほぼ下京町衆倶楽部内のメンバーとその個人的な人脈で「口コミ募集」をやってみよう。その過程で、タイムラインや参加者募集の問題点を明らかにしよう。それらが、今回のテストツアーその1とその2の目的でありました。

### □H25年3月30日 「まちの縁側」テストツアーその2

■下京町衆倶楽部「まちの縁側チーム」では、3月30日10:50~13:20 「つどい場てんきにな〜れ」を含む「まちの縁側」3カ所をまわるテストツアーを企画。5人から10人ほどの少人数で北区の注目すべき「地域の居場所」「まちの縁側」をめぐりました。

■FacebookとE-Mailと口コミだけで人を集めミニツアーを実行する実験を兼ねたイベントです。

■「まちの縁側ツアーその2」ハルハウスにて

龍谷大辻田素子ゼミ3回生竹内君によるプレゼン（写真04）

彼は、ハルハウスの危機を救ってくれた人物です。朝5:30からという厳しい条件にもかかわらず、朝雑炊を出したり、助成金申請の報告書を作ったり、丹羽國子先生に指導を受けながら、バイトに通ってくれています。

この日も、ボランティアの倉田さんと加藤さんと共にツアー参加者を迎えてくれました。



(写真04)

■「民設民営」の地域拠点を支える人たちは、基本「持ち出し」で、心意気と使命感で走りだされた方々が多いのです。そんな中、育てた若手が新天地を目指し独立した後の、若い戦力となってくれている竹内君に敬意を表します。有償だといっても、誰にでも出来る事ではないからです。

■経済学部ゼミ生が「まちの縁側」調査を研究課題に選び、その指導教官が学生たちを地域に送り出す…このことも結構根性のいることだと感謝しております。

学生たちが地域で無責任な調査や行動を取れば、信用をなくすのは教官であったり、大学であり、その覚悟の上で、学生を送り出してくださっている龍谷大辻田素子先生にも敬意を表します。ありがとうございます。

■「まちの縁側ツアーその2」「つどい場てんきにな〜れ」にて



(写真05)



(写真06)



(写真07)

開設者の伊藤千秋さんと和田晴実さんの話に聞き入るツアー参加者。（写真07）

■「つどい場てんきにな〜れ」の伊藤千秋さんと和田晴実さん。（写真06）北区紫野に高齢者を介護する家族たちの集いの場を開設されて二ヶ月。在宅で介護する家族が困りごとを打ち明けたり、認知症の家族と気軽に外出出来る場が少ない現状を何とかしたいと始められました。

■社会福祉法人の介護職のプロであるお二人が、仕事の傍ら何故このような場所を開設するに至ったのか？在宅で介護に携わる家族が、せめて体を休められるようにデイケアセンターが存在すると思われているけれど、実際は、老親・連れ合いをデイに送り込んで、センターで居心地の悪い思いをしていないか…うちに帰りたいと迷惑をかけているのではないかと体は休めても心は休まらない家族の実態をお二人は数多く見てこられたそうだ。

■ところが、ある若年性アルツハイマーの家族が「つどい場てんきにな〜れ」に来られた時のこと。いつもデイに行かれるとカエルコールを連発されたり、食事もかっこむように少しでも早く食べ終えて帰ろうとされる方が、「つどい場てんきにな〜れ」では、ゆっくり一品ずつ食べ終えられて、落ち着かれた様子が観察されたそうです。デイケアセンターと「つどい場てんきにな〜れ」は何か大きく違うようです。

■介護家族が一番パニックになられるのは、失禁などの排泄に関する問題だそうだ。身内の失禁や排泄物に出会うと、「もう〜アカンてえ、施設へ入れんと〜」と慌てられるそうです。それでも、正しいオムツや尿漏れパッドの使い方をお教えするだけで、安心して自宅で過ごせるようになる方も多いと聞きました。でも、多くの人は排泄のことをどこの誰に相談したらいいのかわからないのが現実です。

その相談に乗れる場所がここにはあります。

■「まちの縁側」テストツアーその2「新大宮こどもの基地」にて

この日のイベントでは、子どもたちが創作書道や絵を書くことで元気になるワークショップを仕掛けておられる若い衆が複数おられました。最初は紙の端っこに小さなイラストを遠慮がちに書いていた女の子が、大学生に「それいいね〜」とほめられて、最後は大きな「臆病なオオカミ」のイラストをしあげてしまったエピソードを聞きました。これって既にアートセラピー？絵画療法の世界ではないか？とかなり驚きました。大学生と子どもたちが大宮商店街の一角で面白い動きをしておられます。そして、おそらく商店街のみなさんがそれをやさしい眼差しで見つめておられるに違いない…そんな気がしました。商店街と子どもたちを若い衆がつなぐ…これも「まちの縁側」の一つの形なのですね。きっと。

■「まちの縁側」の定義を一言で述べることは難しいけれど、数人ずつでも現地を訪れるツアーを地道にゆっくり続けてゆくことで、より多くの人に「まちの縁側」のスゴさや必要性、そして大げさに言えば、今の日本を救う可能性を伝えてゆきたいな~などと思った土曜日でした。

■「まちの縁側」テストツアーの振り返りもそろそろこれで終わりにしようと思います。

#### ◎ Good&New 01

FB イベントページを生まれて初めて作ってみた事。他には下京町衆倶楽部内の ML だけの告知。それでも 1 2 人もの人たちが参加してくださった。地道に「まちの縁側」ツアーを続けるためには、ひよっとしたら既存の市民新聞やラジオやフライヤー等はあまり重要ではないのではないか？との疑問が生じて参りました。次なる実験は広報についてどうあるべきなのか？についても考えたいと思います。

#### ◎ Good&New 02

欲張って北区の「まちの縁側」を 3 カ所をつなごうとしたこと。「まちの縁側」主人側の 4 人の方がツアー参加者として他の縁側を訪れてくださったこと。「まちの縁側」どうしがつながって連携しあうための布石が打てたとしたら、今回の「テストツアーその 2」は意味があったのかもしれないと感じています。

#### ◎ Good&New 03

「つどい場てんきにな~れ」のような介護家族がほっと一息つける場を目指すタイプの「まちの縁側」の存在を知れたこと。これはかなり重たい分野に属する縁側です。排泄・失禁・オムツにきちんと向き合うことで、介護家族の精神的・肉体的不安を軽くしようとしているお二人の介護のプロの存在を知ることが出来ました。これは何よりの収穫かもしれません。5月の「まちづくりチョビット推進室」のゲストには「つどい場てんきにな~れ」のお二人に来ていただくことに致します。